

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者:太田 正信

作成日:平成30年4月28日

サンプル数(評価数値の分布合計):8

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	1	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	1	0

①課題

教育理念・目標はここ数年、多くの項目において「ほぼ適切」以上の評価となっている。

しかし、昨年と比較して、「③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想抱いているか」については、昨年度「ほぼ適切」以上の評価を受けていたが、本年度は「やや不適切」の評価に転じている。

「⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」については、昨年度と同様「やや不適切」の評価である。

これは、近年のAIに代表される世の中の急激な変化、先行きの不透明感のために、教職員が抱えている不安の現れと判断する。しかし、こうした時代であるからこそ専修学校としての学園の掲げる基本理念、教育目標を教職員全員が理解し、気持ちを1つにしていく覚悟が必要に思う。

②今後の改善方策

学校の理念・目的・育成人材像を明確にすることで広く社会から学園の教育内容が理解され、また学生・保護者への周知も図られる。そこで学科の目標とする業界人像を以下のように定義した。平成29年度においても全教職員がこの業界人像を「公務員魂」として学生に浸透させていく必要がある。

【目指す業界人像】

・親切心をもって民間に接することができ、社会に広く奉仕貢献することのできる公務員を輩出して、真の公務員魂を身につける

【学生から引き出す能力】

1.IT活用力、2.海外行動力、3.協調行動力、4.自己管理力、5.公務員に合格する専門能力

毎日のホームルームを活用した担任教員による朝礼啓蒙、授業担当教員による授業内啓蒙、校長による講演啓蒙などの場を利用して学生への意識浸透を図る。

これら学校側の取組内容は、学生だけでなく保護者や官公庁、また入学希望者や高等学校に対しても、学校案内書、ホームページなどを通して積極的に広報していく。学校説明会、体験入学会、保護者説明会等のイベントの際には、新時代に対応する学校の取り組み姿勢を直接伝える工夫をしている。

③特記事項

名古屋大原学園では毎年度学園の運営計画書の見直しと策定をし、下記の2点を学園全体の教育目標として明確に掲げている。

①早期大人化教育:精神的経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成

②学科の専門教育:資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成

学園はこの2つの教育目標に基づき学園独自の教育プログラムの実践を通じて、国民期待の学生を育てることを教育方針として定めている。

全教職員は、毎週月曜日の全体朝礼において運営計画書に掲げられた基本運営方針・教育目標の唱和、および各学科・各部署の計画項目の進行状況を確認している。これにより各教職員が教育目標および教育理念を再確認し、週の初めに新たな気持ちで業務に取り組むことが出来ている。尚、当計画書は毎年度末に各部署ごとの業務目標・計画を1冊にまとめたもので、全職員が日常的に内容の確認や共有、進捗のチェックを実施している。

旧来より学科の目標は、公務員に合格する教育のみならず職場で使える人材の育成に置いている。前年度からの取り組みとしてパブリックサーバントを養成する教育、公共サービスを担うための実践的訓練、地域貢献の経験、国民を守る正義感と節約意識の育成等が実践されているが、こうした取り組みは今後も継続し、さらなる発展拡充を目指している。

平成25年度から学園独自の検定試験として自己管理力検定、協調行動力検定、IT活用力検定、海外行動力検定を開発導入し、学生たちの就職後の職場での基礎能力アップに役立てている。

さらに、平成29年度からは『新時代対応職務能力ブラッシュアップ作戦』と称する学園スローガンを新たに掲げ、もう一度原点に戻って(1)役職者の時代対応経営力(部下指導力を含む)(2)時代対応業務力(講義対象範囲の拡大を含む)(3)時代対応企画力を育成し、その結果を踏まえての向上報奨金の支給や、更に数年後には能力評価を反映した人事体制や給与体系を構築していく予定である。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0

①課題

学校運営についてもここ数年、多くの項目において「ほぼ適切」の評価以上の回答となっている。これは各教職員の学校運営に対するアンテナが鋭くなり、全体を把握できるようになった現れであるが、さらなる改善項目も表出している。

「⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」については、昨年度「やや不適切」の評価が出ていたが、本年度改善された。

しかし、「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」については、昨年度「ほぼ適切」以上の評価であったが、本年度は「やや不適切」の評価である。

2月に実施した教育課程編成委員による職員に対する「法律改正講義」等により、コンプライアンス体制の重要性を勉強した。その後、教務会議等を開催してコンプライアンスの見直しを検討したため、改善へと転じている。さらに学校として特に重要である「個人情報の取り扱い」については、個人判断による不注意からの漏洩を防ぐ為にも、責任者の管理の下で、各人が細心の注意を払って管理していくことが肝要であると考えられる。

⑧については、一層の効率化と使い勝手の向上を目的として、昨年度より新ソフトへの切り替えが実施された。現在は職員もこのソフトにも慣れ、さらに効率的な情報処理管理体制が実現されていくと考えられる。さらに、担当部署である電算室や総務担当者からの定期的な説明会の実施や、職員研修の機会を通じて徐々に浸透が図られていくものと思われる。

②今後の改善方策

入学者情報・入学者管理・学生管理(成績管理、出欠管理)・学納金管理等についての一元化ソフトの導入が、平成28年度末に実施された。これに伴い、各専門課程の教務、広報及び総務・経理との連結が可能となるため、事務処理の効率化と部署間の情報伝達がスムーズになるものと期待されている。導入後は教職員に対する学習及び研修の機会も、今年度中の業務閑散期を利用しての集中研修や毎月の会議を通じて提供していく所存である。

さらに平成29年度学園計画において、能力評価を反映した人事体制や給与体系を構築するために、役職者登用基準や能力育成方法を検討していく。

③特記事項

教育目標として掲げた①早期大人化教育、②学科の専門教育、およびカリキュラム改革計画に基づいた具体的な事業計画は学園学校運営計画書の月次遂行項目として策定されている。また同計画書には各項目の実行責任者と学園全体組織図が明示されており、指示命令系統および全体の組織運営、意思決定、報告連絡相談系統は明らかである。

学園理事会・評議員会は適時適切に開催され、学校運営状況が随時報告されている。また議事録は適切に作成管理されている。人事給与に関する項目を含む「就業規則」は明文化されていて関係法令の改正に伴いその都度改訂を行っている。消防計画、学園地震防災応急計画は整備され、教職員の役割分担が明示されている。

教育活動等に関する情報公開については学校案内書や学校ホームページを通して関係業界や地域社会、入学希望者やその保護者に向けて最新情報を発信している。また、就職サポート室が求人情報の収集のために企業訪問をする際にも学園の教育活動について情報発信をしている。

学校財務情報、学校自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドラインに従って適切に公開している。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、利害関係人が財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書の閲覧が出来るように情報公開をしている。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	1	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	1	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	3	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	1	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	1	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	3	2	0

①課題

本年度は昨年度と比較して、さらに「やや不適切」の評価が増加して、過半数の項目で「やや不適切」の評価が生じている。これは教育活動が各教職員が日常的に直接携わっている分野であり、常に各人が高い目標を持って臨んでいる業務であるため、自ずと厳しい評価になっているものと判断する。

「③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」「④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」、「⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」、「⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」「⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」、「⑪人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」「⑬関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研究や教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みが行われているか」「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」について「やや不適切」の評価が出ている。

②今後の改善方策

平成28年度から「2年制公務員科」が文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けた。これを機会に現状ニーズに即した一層実践的なカリキュラムの充実を図っていく。

「⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか」について。官公庁内のインターンシップは最近徐々に増加傾向にあるが、当校の学生が受験する公務員試験と時期が重なってしまい、参加できないのが実状である。そこで国家公務員税務職については、当校の学生が毎年3月の確定申告の繁忙期にアルバイトとして実務補助の体験をしている。今後は継続的にこのような機会を利用していきたい。官公庁のニーズに即したカリキュラムを工夫することや、公務員経験者からの人材の確保と実現可能性のある教職員研修のあり方等を、次年度も引き続いて検討していく所存である。

⑬に関しては、当校の教育編成委員である弁護士や司法書士の先生を招いての勉強会を毎年実施して、特に今話題となっている法律トラブル等の問題を選んで研修をしている。さらに全国専修学校総連合会や一般教育法人職業教育・キャリア教育財団等の実施する研修にも毎年2~3名の教員が参加している。

⑭の項目に関しては、「ベーシックノレッジ」と称する学園の統一目標等各教職員が最低限保持していなければならない業務知識の確認試験を毎年2回実施している。その他業務分野を広げるための「IT活用力」「海外行動力」「強調行動力」「自己管理能力」等の学内検定試験にもチャレンジしている。

ただ、学校独自の能力開発の研修等が十分に実施されている体制ではないため、今後の課題として学生の長期休暇等を利用して実施していく方向で考えている。さらに、関連分野における教員の知識を広げるために、官公庁訪問や説明会等に積極的に参加し、現場で求められる人材・ニーズの掌握に努めている。公務員合格を目指すだけでなく社会に奉仕貢献し、コミュニケーション豊かな人材を育てることが目標である。

公務員合格は概ね高い合格率を維持しているが、今後更なる高い合格率と人材育成を目指すためにカリキュラムや教授方法の見直しなど学校側の対応も必要である。また教職員の能力開発の一環として「授業力」の向上を目指すと同時に学生自身の「受国力」アップを目指す。さらに積極的にボランティア活動に参加することで多様な人々との交わりを通じて、社会性や精神的にもバランスのとれた人材育成を促進していく。

平成28年度から体育のカリキュラムに「ダンス」を取り入れた授業を実施している。学生達の自己表現力の向上に役立つとともに、積極性とプレゼン能力が身に付いたと感じている。

③特記事項

授業力評価について従来より校長による評価が実施されているが、授業力アップのためにはさらなる工夫が必要である。昨年度より教職員が年数回に渡り互いの授業を聴講し合ったり、新しい科目にチャレンジする場合には事前に模擬授業を実施して、各自の授業能力の向上を図ることで、より良い授業を学生に提供するための取組みを実践している。

3年前より全学生にタブレット型端末機を配付し活用推進を図っている。従来型の教室授業だけでなく、タブレット端末を活用したインタラクティブな授業を織り込み、学生の理解度向上に繋げる取り組みを実践している。同時に学生手帳の活用により自己管理能力を高め、授業時間以外での復習時間の確保や目標到達度管理などを推進している。こうした各種取り組みの相乗効果により合格率の向上を図っている。

「国民期待の人材育成」をめざし、企業や官公庁が採用したくなる人材育成のために、職場能力の育成カリキュラムの検討を進めている(新教授法、新学習法の研究)

教職員の研修として学園長主催による定期的な勉強会への参加を促進し、先人の残した名句名言の和紙清書などを通して品格の向上を図っている。同勉強会には広く社会人の方も参加され、生き方の工夫を通しての人間性能の向上をテーマとしている。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①就職率の向上が図られているか	6	2	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	6	2	0	0
③退学率の低減が図られているか	4	4	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	4	0	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3	5	0	0

①課題

学習成果の項目は、本年度初めて「やや不適切」の項目が消滅して、すべて「ほぼ適切」以上の評価となった。特に、「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」については、昨年度「やや不適切」の評価であったが本年度は改善されている。

一方「①就職率の向上が図られているか」の項目については、本年度の公務員内定率も過去最高の約86%まで達したため、外部からも高い評価を受けている。引き続き本年も評価を維持すべく努力していく所存である。

②今後の改善方策

卒業生が仕事の合間を縫って来校することが多く、愛校心の高さを感じる。これら卒業生を「業界で活躍する先輩」として授業に招き、在校生に対して業界の様子、仕事のやりがいなどを話してもらっている。在校生にとっては貴重な情報が得られる場として好評である。卒業生から、仕事の魅力や現場の様子、学生時代に身につけておくべきことなどを聞けることは、在校生に大いなる刺激ややる気をもたらしてくれる。卒業生から得られる最新業界情報に基づいて授業内容を調整し、ビジネス最前線に則した教育内容を保持するよう努めている。

また、昨年度同様に税務署採用試験合格者が多かった。本年はさらに、地元以外の公務員試験にチャレンジして、東は関東エリア、西は関西エリアの公務員試験に合格をすることができた。今後のカリキュラムの中に税務署内定者に対しては、就職内定後「日商簿記検定試験」又は「FP検定試験」にチャレンジさせたり、警察官・消防官内定者に対しては、「危険物取扱主任者」等の試験にチャレンジさせることを考えている。

このように在学中に資格取得にチャレンジしたり、人間力を身につける努力をしておくことはキャリア形成にも効果的である。ビジネスマンとして必要な基礎知識であるIT知識や簿記知識、FP知識の習得や放課後のゼミ、学園長主催による定期的な勉強会への参加を奨励している。

③特記事項

学園では入学目的を明確化し、その1つにキャンパスライフを楽しむことを挙げている。自らクラスづくりに参画し、学園イベントや校内イベント、部活動、さらにはボランティア活動等に積極的に参加することを通して、良好な人間関係づくりのための機会を数多く経験することにより、結果として欠席や退学の低減に繋げている。

またクラス担任制度を採用しており、学生への細やかな支援(学習・進路・就職の指導)ができるような体制を取って

いる。校長や部長も担任をサポートし、学校全体での支援体制も出来ている。

従来より社会人を対象とした古典の勉強会が開催されているが、一昨年より新たな試みとして学生向けのゼミ形式による勉強会を開始した。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	6	2	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	6	2	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	5	3	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2	5	1	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	1	0
⑦保護者と適切に連携しているか	4	4	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	2	5	1	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	1	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3	3	2	0

①課題

過半数の項目において「やや不適切」の評価が出ている。

具体的には、昨年度は無かった「⑧卒業生への支援体制はあるか」「⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」については、本年度新たに「やや不適切」の評価となっている。

学生支援は徐々に充実してきているが、教育現場の細かい箇所では依然不足している部分が指摘されている。このような教職員からの現場情報が、スムーズに提供される風通しのよい職場環境作りが大切である。

②今後の改善方策

「やや不適切」の割合が多かった⑩については、現実的な実施までには長い時間を要する最大の項目であると考えられる。しかしながら、①当校において公務員授業を体験する「体験入学授業」②毎年11月から翌年の9月まで3期に分けて、当校夜間に実施している「高校生公務員講座」③放課後の高校で実施している「高校内公務員講座」などは、多くの高校の先生方から高い評価を受けている。こういった高校等との繋がりから、今後さらに連携を深めたキャリア教育を実践していくことを予定している。

④については、定期健康診断、感染症対策、薬物乱用防止講習会の実施などの健康管理システムは既に出来上がっている。ここでは校内に「保健室」の無いことが評価の原因となっているものと思われる。小学校、中学校、高等学校で見慣れた「保健室」の無いことは学生の不安感を募らせているのかもしれない。

同じ敷地内にある「大原簿記情報医療専門学校」や社会人を対象とした公的な「職業訓練」においては医療や介護の授業を実施しており、ベット等の休養施設は充実している。さらに医療や介護知識を有する教職員も存在することなどから、最低限の健康管理のための環境は整備されていると判断する。

⑥については、「学生食堂」は無いが「パンの定期的販売」「自動販売機の充実」で補っている。さらに「図書室」の代わりに「図書コーナー」を設けて、最新の専門誌をそろえている。

⑧においては、卒業後最低でも1回は卒業生が来校し近況を報告している。また、職員が高校訪問等で外出する際に時間があれば、卒業生の就職先である官庁や小中学校を訪問して卒業後の様子を見てきている。将来的には現在の簿記校で実施しているOB・OG会などを企画していきたいと考えている。

⑨については、校舎内では以下の場面において社会人との接点があり、学生に良い環境を与えていると考えられる。①大学生・社会人公務員講座②付帯教育の社会人資格取得講座③外部委託の公共職業訓練④多くの受付来校者などである。外部の来校者からは学生の挨拶等で高い評価を得ている。さらに、年1回学生の卒業前に教育課程編成委員から社会人としての心構え等について講演を受けている。

卒業生を含めての社会人のニーズを踏まえた教育環境については、まだまだ未整備な部分が多い。今後多くのニーズが予想される社会人の学び直しの機会提供と併せて、受講環境の整備を図っていききたい。⑩の高校等との連携による職業教育の取り組みに関しては従来から実施しているが、その内容についても目指す職業人像に直結したプログラムにレベルアップしていく必要がある。

日常の健康管理については、体力面と精神面の支援をしている。テニス部など放課後の部活動、新入生歓迎会やサマーキャンプは学年や学科を超えた交流の場、友達作りの場となっている。校内にはレクリエーションルームが設置され公務員試験に向けて体力作りに広く利用されている。また授業の一環として近隣の施設を利用しての体育授業も取り入れ、ストレス解消と体力の維持を図っている。こうした健康管理プログラムは今後も継続していきたい。

また、保護者との連携の一環として、保護者ガイダンスを在籍期間の短い1年制課程でも実施している。日常の教職員の取り組みや公務員の合格状況、採用状況を理解していただくことで、保護者に安心感と学校への信頼感を与える効果をあげている。今後も保護者との接点を増やす機会を工夫していきたい。

さらに高校から依頼があれば、就職希望の高校生に対して、仕事選択やキャリア形成の重要性についての講演や、面接試験対策等の出張授業を行っている。今後も高校との連携を深め、高校生の職業意識形成に一層協力する取り組みを進めていく。

③特記事項

就職支援については、公務員を知るための一環としての自衛隊見学や官公庁職員による校内説明会を開催するなど、業界研究の場を提供している。また、教職員が、履歴書の書き方や自己PR・志望動機の内容の指導をしたり、2次試験対策としての面接練習も積極的に取り入れるなど、手厚い就職対策を実施している。

特に近年力を入れているのは、公務員試験合格に終わらず、さらに職業人としての入社2年目レベルを目指した実務教育の実践である。

学費の減免措置(資格特別奨学生制度)や学園独自の低利による教育資金融資制度は、入学を希望する学生や保護者、高等学校からの評価も高く利用者が多い。近年、入学時の学費の一括納入に負担を感じる保護者が増えていることから、学費の分納制度の取り扱いを実施している。さらに昨年度からは奨学金の交付時期に連動した分納制度の導入など学費納入についての便宜を図っている。

精神的悩みを抱える学生の支援のために数年前に教職員がカウンセリングの研修を受けた。また、従来より薬物乱用防止講習会の実施をしているが、今後もこれらの継続を図りたい。

遅刻日数や欠席日数が規定数に達した場合、担任から保護者に電話連絡を入れている。また、欠席日数に応じて役職職員同席の面接を行い、欠席日数を増やさない対策を取っている。面接に段階を踏むことで早いうちに問題の解決を図り入学目的を果たすよう指導している。

学園独自の学費分納制度も高く評価されたが、入学後に経済的事情で学費支払いが困難となり、中途退学をせざるを得ない学生が出た場合は、部長・校長・総務経理室が迅速に動くことで、学生の個別事情に応じた細かな対応が図られている。

校内で学生が不慮の事故による傷害を受けた際に支援補助ができるよう学校が生徒災害傷害保険に加入をしている。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	1	0

①課題

昨年度「適切」「ほぼ適切」以上の評価であったが、本年度はすべての項目において「やや不適切」の評価がある。

その中でも③の防災対策については5年前より校舎内倉庫への防災備品の配備と食料・飲料水の備蓄を進めてきた結果、現在ほぼ物品についての防災体制は整った。そのため、教職員の「適切」への評価が一番高くなっている。今後は災害発生を想定した職員による具体的な対応策が課題である。

②今後の改善方策

①の教育上必要とする施設・設備に関しては、教職員個人の理想とのギャップや学園の財務的予算との兼ね合いがあり、評価の分かれるところであるが、今後も改善の必要性はあると考える。学生食堂や購買、保健室や図書室は教育上及び学生の日常生活上重要な施設・設備であるが、現状はパンの定期的販売実施や図書コーナーの設置、簡易ベッドや常備薬品の配備等で対応している。

②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」については、特に学内施設及びインターンシップの不足が「やや不適切」の原因と考えられる。学内施設の不足については、学外施設を利用することにより、体育関係の授業やリクリエーションを実施して補っている。インターンシップに関しては、現在全面的にインターンシップを実施している官庁は少なく、少数の市町村に限定されているため、十分な教育体制が整理されているところまでは至っていない。ただし、確定申告等の多忙時の税務署でのアルバイトとして毎年数名が職場実習を体験している。学生の自主的な海外旅行を支援するため海外研修旅行支援制度を推進している。条件を満たす旅行を学生が自主的に実施した場合は旅行代金の一部を補助する制度で、毎年数名の利用実績がある。この制度を活用して学生の海外行動力を高めている。

また、「③防災に対する体制は整備されているか」については、今後30年以内に巨大地震の発生する確率は、東南海地震は60%と言われている。防災備品が整備されたのを受けて防災備品の使用方法や食料・飲料水の管理と配給等の教育研修が必要である。また実際に発生した際の状況を想定し避難計画、教職員への対応訓練、学生を動員しての避難訓練の具体的方策を検討する。

③特記事項

専修学校設置基準に照らして通常教室、実習室とも十分な面積と必要数を満たしている。また実習室は各学科に応じた教育用機器備品を揃え実践演習の場として十分活用されている。各教室は授業後施設しているが、学生の希望があれば自学自習する教室として開放している。また各階の小ホールには数台の丸テーブルがあり学生の自習の場として広く利用されている。

なお学生ホールは、校舎閉館時刻まで自由に利用できる。また8階にあるDVD視聴室は、分野以外の資格講座受講の場として無料による受講が可能である。

レクリエーションルームがあり、卓球台やジムトレーニング用具が設置されている。部活動や公安系公務員を希望する学生の体力アップに利用されている。また、本格的なトレーニングジムのある外部施設を学生・教員が割安で利用できる環境を提供している。

一部の教室にはプロジェクター、スクリーンが設置され、パワーポイントを使った授業や平成25年度以降から導入活用されているタブレット端末を活用した授業も実施されている。

消防計画、学園地震防災応急計画は整備され、全教職員の役割分担が明示されている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①学生募集活動は、適正に行われているか	5	3	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	3	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	4	4	0	0

①課題

昨年度と同様に全体的にほぼ「適切」の評価を受けているが、より多くの入学者獲得のため、さらなる工夫が必要である。

また、高評価の原因の一つは、本年度入学者数が昨年度を上回り、凡そ目標数値を達したことにある。

②今後の改善方策

学校説明会や体験入学会での対応方法については、毎年度初めに開かれる教務広報会議において見直しが行われている。また入学対象者は高校卒業者だけでなく大学短大卒業者や中退者も含まれるため、定例の説明会だけでなく必要な都度随時の個別説明も実施している。学内設置されている広報委員会において、学校が現状進めている様々な教育改善策を、入学希望者や保護者等関係者に分かりやすく告知する方法や募集方法を研究開発しているが、そこで開発された内容を教職員全員が正しく理解して外部に伝えていくことが大切である。

学生に対する経済的支援策としては、学費の一部を減免する奨学生制度や分納制度を整備しているが、これら支援策の利用についても積極的に広報し入学者増に繋げていく。

③特記事項

入学案内書は毎年内容を検討し制作している。学校説明会や体験入学会の開催日程、各種教育プログラムの紹介、カリキュラムや資格合格実績、就職実績、学内イベントを掲載している。また、入学方法や出願手続き、学費、教育ローン等を明記した募集要項や入学志願書もパンフレットの最後に綴じ込まれている。これら内容はホームページにもアップされ自宅で閲覧も可能である。掲載内容は毎年更新している。不明な点はQ&Aやメールで問い合わせもできるので、入学を検討している学生には比較的理解しやすい環境が提供できている。

教育成果として資格試験の合格率、就職内定率などの合格実績を表示するときは、行政の指導に則り、誤解や錯誤を与えないよう配慮をしている。学校説明会や体験入学会においては、入学希望者が気軽に質問できるように在校生も入って対応してくれているが、同世代の在校生の体験談は真実味もあり大変分かりやすいと高校生の評判も良い。

学納金の額は妥当な金額と考えているが、入学希望者が入学の機会を失うことは国としての人材育成にも大きな影響を与えかねないので、各種の奨学生制度を紹介して将来の機会損失にならないよう後方支援をしている。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0

①課題

昨年同様「ほぼ適切」以上の評価となっており、評価数値は安定している。

④の「財務情報公開の体制整備はできているか」の項目については、一般教職員の普段の意識が及びにくい項目である。今後も定期的な勉強会や研修等の機会を利用して、全体の意識の向上を図っていく必要がある。

②今後の改善方策

この分野は個々の教職員にとっては、中々把握しきれない項目であるため、学園経理財務室と連携し昨年以上に職員教育の機会を多く設けていく。

③の会計監査についても、実施自体を知らない職員も多くいるため、会計監査の実施日には朝礼等で全体に告知することを意識して行っている。

③特記事項

学園理事会・評議員会において承認された予算計画に基づいて学校運営を行っている。この運営状況については年4回開催される学園理事会・評議員会において報告され、予算計画の実施状況、収支状況を確認している。当学園は複数の学校を設置しているが法人全体では財務基盤は安定し、借入金のない財務状況である。入学者に寄付金を求めたり学債の購入を依頼することはない。

高額な物品の購入に関しては数社の見積書取得と稟議書作成を徹底している。定期的に会計監査、税務監査によってこれら手続きが適正に行われているか確認を受けている。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規定を整備し、利害関係人が閲覧できるように情報公開の場を設けている。学校自己点検評価は適切に行なわれており、その結果についてはホームページにおいて公開している。

予算管理、収支計画、会計監査などは学園経理財務室と連携して適切に行われている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0

①課題

昨年同様、全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

学校法人立専修学校として引き続き法令順守に努めると共に、特に若手の教職員への研修や定期的な勉強会を本年も実施をしていく。

学校関係者評価委員会の意見にもあったように、外部委員が評価をし易い環境作りや機会の提供を図っていくことが今後の課題である。ホームページを通じての情報公開を引き続き丁寧に行なっていく。

②今後の改善方策

引き続き校長や部長が先頭に立って法令順守に努めるとともに、毎月開催される地区連絡会議や授業閑散期に行なわれる職員研修の機会を利用して全体への啓蒙を図る。

③特記事項

学園学校計画書の冒頭で「国民からの期待と教育者の使命」として教育基本法の前文、第一条(教育の目的)を掲げており、全教職員に対して教育者としての使命と心得について啓蒙し、誇りと情熱をもって教育に当たるよう努めている。

施設・設備などは専修学校設置基準を遵守した内容になっており、授業時間、授業日数、教育課程編成も基準を満たしている。

学園では数多くの学生個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく「個人情報保護規則」を整備し適切な取り扱いを図っている。

毎年度末に全教職員による自己点検・自己評価を実施している。評価項目に対して「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の判定を行い、特に「やや不適切」「不適切」と評価された項目について職員会議で内容を検討している。情報不足による勘違いや錯誤ではなく、実際に改善が必要と判断した場合は、具体的な改善策を講じて実行している。

自己点検・自己評価結果は総括して学校ホームページ上で公開している。さらに自己点検・自己評価の結果は学校関係者評価委員会に報告し、関係者による評価を受けている。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0

①課題

昨年と同様に全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

特に②の学生ボランティアの項目については、全員が一致して「適切」評価である。

②の「学生ボランティア活動を奨励、支援しているか」については、一昨年より公務員を目指すものとして重要視される学生のボランティア活動の奨励と支援を強化し、昨年度も多くの方が震災後の処理のため東北方面・熊本方面へと赴いた。本年も引続いて積極的に奨励支援をしていく。

②今後の改善方策

職員・学生が機会あるごとにボランティア活動に積極的に参加している。社会貢献の場、コミュニケーション力を育成する場としての重要性が高い。最近では地元だけに止まらず、遠く東日本や熊本の被災地に赴いての活動も多く見られた。「人の為に何かをすること」は、学生にとって自身の成長に繋がる好機にもなっているので、パブリックサーバントを目指す学生がボランティア活動に参加することを、学校も積極的に奨励している。

今後は企画から参加できるボランティア活動にチャレンジしたり、学生自身が主体となって運営するボランティアイベントを企画するなどの経験を通じ、自ら考え行動できる学生の育成を図る。

③特記事項

学校の施設を活用した地域貢献の1つとして試験会場や講演会場としての施設の貸し出しを行っている。受験者や参加者の利便性から借用の依頼があり、可能な限り対応をしている。

地元活性化として企画される様々なイベントへの参加を奨励。「得するまちのゼミナール」への講座出店や「浜松芸術祭」への学生によるボランティア参加、「エコまち倶楽部」としての毎月の街なか清掃等がある。また学生による近隣の清掃活動も定期的に行われている。